

普及活動情勢報告（平成26年8月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおニラ部会露地栽培現地検討会



J A土佐くろしおニラ部会の露地ニラ現地検討会が7月25日に開催され、8名の生産者が参加しました。

品質低下に影響が大きい、ネギアザミウマを主体とした害虫防除について説明し、現地ほ場では、払い落としによる発生の確認方法を示しました。生産者からは「もっと丁寧に薬剤散布しないと」という意見がありました。

ニラの周年出荷に向け、施設栽培での株養成期間中に並行して取り組む露地栽培の安定生産を支援します。

ミョウガ基本技術勉強会



J A土佐くろしおミョウガ部会は、就農5年未満の後継者を対象に、基本技術の勉強会を7月30日に開催し、25名の参加がありました。管内ではミョウガ栽培の後継者が増えており、栽培年数の浅い生産者が栽培基本技術を学ぶ場が必要でした。

ミョウガとは？から始まり、それぞれの栽培技術について、自由に質問や意見を出し合い、振興センターが詳しく回答・説明しました。参加者からは「知らない知識を習得できた、温度管理についても知りたい」などの意見があり、活発に情報交換を行い、共に学ぶ場となりました。

第2回の開催も予定しており、今後も、ミョウガ後継者の育成支援をしていきます。

神母野（いげの）営農組合 第2回農作業体験交流



神母野営農組合（中土佐町）が第2回の農作業体験交流を8月2日に実施し、親子連れなど17名が参加しました。連日の雨で開催の判断が難しかったのですが、組合以外の地区の協力者もあり、野菜の収穫体験、かかし作り体験、生き物観察を行いました。昼食は炊きたての神母野米とともに、大野見名物のアメゴの塩焼きや田舎料理がふるまわれ、参加者は大野見の味を楽しみました。第1回目から準備等の運営支援をしてきましたが、2回目は組合の運営体制にも自信と余裕が出てきて、自主的な活動が多く見られてきました。初回からの参加者もいて、和やかな雰囲気の中、継続した交流がなされています。次回は、米の収穫体験を10月4日に計画しています。

J A土佐くろしおキュウリ部会決算総会



J A土佐くろしおキュウリ決算総会が8月19日に開催され、約90名の生産者が参加しました。当園芸年度の生産・売上は良好で、指導機関としてもホッとしています。

会議では、J Aと共同で実証した「防虫ネットを利用したアザミウマ防除」や「炭酸ガス施用条件下でのキュウリの生育」について結果報告をしました。また、南海トラフ巨大地震への備えとして、特に重油タンク対策への啓発を行いました。

この重油タンク対策については、他の品目部会でも順次、指導を行います。

梶原町宮野々地区で集落座談会を開催



8月20日、梶原町宮野々地区において集落営農に関する勉強会を開催し、地区の生産者19人の他、JA津野山と梶原町の職員も参加しました。

当地区での集落営農の話し合いは初めてなので、集落営農について、また、他地区の取り組み事例等を説明しました。意見交換時に「近くの集落で集落営農に取り組んでいることが分かった。参加して良かった」等の意見も聞かれ、集落の意向調査を行うことも決まりました。今後、意向調査の集計や県外視察等の支援を行い、同地区での集落営農を検討していきます。